

## 中央大学附属高等学校「Project in English」卒業発表会

2020年11月24日、中央大学附属高等学校において行われた「Project in English」卒業発表会に、学校応援プロジェクトから5名の学生が参加しました。

「Project in English」は、中央大学附属高校が行っているPBL型の授業であり、高校1年生から3年生まで実施しています。今回は高校3年生・理系選択の生徒が、卒業研究として自ら課題を設定して実験やリサーチを行った成果を英語によるポスターセッションで発表する授業です。プロジェクトのメンバーは、生徒たちと一緒に各ブースを回り、発表内容や生徒の取組みについて英語で質問を行い、その場の議論を活性化させるファシリテーター的な役割を担います。単なる「英会話」ではなく、自分の説明・主張を相手に伝えること、アウトプットに主眼を置いた授業なので、どんどん英語を使わせる・話させることがミッションです。

会場となる多目的ホールには、英語によるポスターが貼られたボードがずらりと並び、理系の分野の学会会場のようです。そこに、生徒たちが三々五々集まってきます。リラックスした雰囲気では発表会がスタートしましたが・・・「今日は、中央大学の学生のみなさんをゲストでお招きしています！」という紹介に続き、メンバーの代表が英語であいさつをはじめると一瞬でぴりとした雰囲気に変わりました。初めて会う大学生、何を聞かれるんだろう・・・、うまく質問にかえせるだろうか？生徒たちのそんな思いが伝わってきます。

発表会がスタートすると、早速、あちこちのブースに人が集まり、プレゼンスタートです。メンバー達は、生徒たちに混ざってプレゼンテーションを聞き、「なんでこのテーマを選んだの？」「この部分、面白いね。どんな風に工夫したの？」といった質問を英語でどんどん投げかけます。「・・・です」と生徒がひととおり説明すると、笑顔で拍手をして、「よくわかったよ！で、次はね、」と続くことも・・・周りの生徒は爆笑、プレゼン役の生徒は必死です。また、一緒に聞いていた生徒たちが黙っていると、「ねえ、あなたはどこがおもしろいと思った？」という質問も・・・プレゼンを受ける側の生徒ものんびりしてられません。

一方で、今回参加したメンバーたちは、全員が文系学部の学生でした。英語を使うことは慣れているけれども、発表の内容が理系ということもあり、用語に苦労する場面もあったようです（それが質問のネタにもなるのですが）。また、周りの生徒の反応もみながいかにその場を活性化させるか、答えにつまった生徒をどのようにサポートするかということを臨機応変に考え、実践していくことの難しさも実感したようです。メンバーの中には、英語教員として教壇にたつことが決まっている学生もあり、アクティブラーニングを体感する貴重な機会となりました。

終了後、担当の先生からは、「大学生が参加したことで、例年以上に生徒が頑張っただけで伝えようという姿勢がみられた」「発表のクオリティが格段に高まったので、ぜひ来年も！」といううれしいコメントをいただきました。

今回は、出張授業ではなく、学校が行う発表会に参加するという初めての試みでした。学生にとっては、PBL型授業を体感し、いかに生徒の活動を活性化していくかということ考えることができる機会であり、今後も高校と連携しながら継続して実施していく予定です。

